

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	(株)北海道福祉事業協力会	代表者	八戸 翼	法人・事業所の特徴	個々の利用者の生活の場を出来る限り以前の生活のまま暮らしていけるように、通い・訪問に力を入れて日々支援している。また、通い・泊まり・訪問は介護者不在などの緊急時には随時対応できるように考えている。職員・利用者共にアットホームな雰囲気となっている。
事業所名	『さくら丘』新琴似	管理者	森山 隆宏		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	0人	1人	1人	0人	0人	1人	2人	2人	人	7人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	1. 初期支援 利用者様本人の思いを、関係を作りながら汲み取り、情報は職員間で共有しながら良い支援に繋げていく。	新規・既存の利用者様の情報をグループラインや書類にて共有している。また、通いや訪問時の必要な情報も職員間で共有している。	職員がご家族と接する機会が少ない為、必要な支援がどこまでできているのか分かりづらい。	1. 利用者様との関わりや、ご家族と関わった際の情報を共有し、皆が多くの方と関わられるようにしていく。
B. 事業所のしつらえ・環境	なし	なし	駐車スペースに限りがあるため、出入りの部分に少し不便さがある。	なし
C. 事業所と地域のかかわり	なし	コロナなども少しずつですが落ち着きを見せ、近隣の方々とのコミュニケーションが増えた。	町内会行事も少しずつ、参加出来るようになってきた。	なし
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	なし	なし	利用者様を支える動きは以前に比べ出来ていることが増えた。近隣の方までは出来ていない。	なし
E. 運営推進会議を活かした取組み	通常の前対面による運営推進会議を行い、事業所と地域の方達との交流を深めていくように開催する。	対面での開催が出来るようになり情報交換や交流がもてるようになりました。	色々な交流の場が、他事業所や地域の場で開催されているので、広く関わりをもつ。	意見交換など行い、利用者様や地域のため、交流を大切にしていく。
F. 事業所の防災・災害対策	地域の防災訓練が行われる時に参加できるようにしていきたい。	防災パトロールなど地域の行事に参加できる時には参加し、行うことが出来た。	なし	